

平成28年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

事業名	顧問医師等の雇上げに要する経費			担当部局庁	保険局		作成責任者				
事業開始年度	昭和59年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	医療課医療指導監査室		鈴木 健彦				
会計区分	一般会計										
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-						
主要政策・施策	-			主要経費	社会保障						
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	保険医療機関等の指導監査等に際し、医療技術の進歩が著しい中、診療内容の当・不当の判断等について、医学的に高度かつ専門的な判断を求められる事例に対し、医療技術参与(顧問医師団)により専門的見地から助言をうけ保険診療の適正化を図る。また、年1回顧問医師団会議を行うことで、指導監査等に関し共通認識を図る。										
事業概要 (5行程度以内。別添可)	医療技術参与の旅費、会議における会議費の支出。										
実施方法	直接実施										
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求				
		補正予算	-	-	-	-					
		前年度から繰越し	-	-	-	-					
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-					
		予備費等	-	-	-	-					
		計	3	3	3	4	0				
	執行額	3	4	4							
執行率(%)	100%	133%	133%								
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	-	
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由				定性的な成果目標と25~27年度の達成状況・実績						
	指導・監査等業務は、その内容により、顧問医師が同行し実施することもあるが、その目的は保険医療機関等に対し、保険診療の内容及び診療報酬請求の妥当性等について確認し、必要に応じて指導等を行い、保険診療の質的向上及び適正化を図ることであり、定量的な指標はもとより、間接的な指標を設定することもできない。				医学的に高度かつ専門的な判断を求められる事例に対し、専門的見地から助言をお願いしている医療技術参与にご参集いただき、指導・監査に関し共通認識を持っていただくため、年1回、顧問医師団会議を開催することで、指導・監査等業務の質的向上を図る。 平成25~27年度においては年1回開催しており、成果目標を達成している。						
	定量的な目標を設定できない理由及び定性的な成果目標	代替目標		代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	年1回、顧問医師団会議を開催することで、指導・監査等業務の質的向上を図る。		会議の実施率	実績	1	1	1	1	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	顧問医師団会議の開催に必要な額を支給する。			活動実績	1	1	1	1	-		
				当初見込み	1	1	1	1	1		
単位当たりコスト	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	単位当たりコスト=X/Y X=顧問医師団会議に要する費用 Y=会議の開催年数(年1回)			単位当たりコスト	百万円	1	1	1	1		
				計算式	X/Y	X/Y	X/Y	X/Y	X/Y		

平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由
	非常勤職員手当	1		
	委員等旅費	3		
	計	4	0	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	政策大目標9 全国民に必要な医療を保障できる安定的・効率的な医療保険制度を構築すること								
		施策	施策目標 I-9-1 適正かつ安定的・効率的な医療保険制度を構築すること							
	測定指標		定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	顧問医師団会議を開催。保険医療機関等の指導・監査に際し、医療技術の進歩が著しい中、診療内容の当・不当の判断等について、医学的に高度かつ専門的な判断を求められる事例に対し、専門的見地から助言をお願いしている医療技術参入にご参集いただき、指導・監査に関し共通認識を持つていただくことができる。									
	経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	改革項目	分野:	-						
			(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度
		成果実績		-	-	-	-	-	-	
目標値		-		-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	保険診療の質向上及び適正化等が期待できることから、国民からの要請も高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	保険診療の質向上及び適正化等に資する事業であることから、地域による偏りが生じることは望ましくなく、全国で統一的去るべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	保険診療の質向上及び適正化等に資する、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	必要最低限であり妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業目的のみの用途になっており、必要なものに限定している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	必要最低限のコストで実施しており、コスト削減の工夫は行われている。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		-	-		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動実績は見込み通りとなっている。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	平成27年度における必要経費については、ほぼ例年通りの執行となっており、妥当な水準であった。				
	改善の方向性	引き続き妥当な水準の執行に努めるとともに、必要に応じて見直しを行うこととしている。				
<b>外部有識者の所見</b>						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
<b>備考</b>						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	270	平成23年度	241	平成24年度	207	/
平成25年度	240	平成26年度	252	平成27年度	262	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省  
4.0百万円

顧問医師  
4.0百万円

[ 非常勤職員手当、旅費、会 ]

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位：百万円)

